

山口県病院協会 会報

2023 **10月号** No.81

- 発行日 令和5年10月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 三浦 修
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



医療法人米沢記念 桑陽病院

〒747-0811

住 所 防府市車塚町3-20

電 話 0835-23-1781

FAX 0835-25-6281

URL: <https://soyo.or.jp/>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介.....	2ページ
協会役員コーナー.....	3ページ
病院スタッフコーナー.....	4～5ページ
医療懇話会報告.....	6ページ
部会コーナー.....	7～8ページ
諸会議報告.....	9ページ
トピックスコーナー.....	9ページ
お知らせコーナー.....	10ページ

会員病院紹介

理事長挨拶 ～医療法人米沢記念 桑陽病院～



医療法人米沢記念
桑陽病院
理事長 米澤 孝仁

米澤 孝仁

当院は、昭和46年に、前理事長である米澤昭人が開設し、一昨年創業50周年を迎えました。前理事長時代より「赤心如水」を理念と掲げ、その創業の精神を受け継ぎ、今日に至ります。

創業当初より、地域も人も政治もテクノロジーも多くが変化する中で、常にその時代のニーズにあった、医療の提供を心がけて参りました。それは、前理事長の創業当初からの「自身が生まれ育ったこの町の人たちの役に立ちたい」という精神を受け継いできたからこそ、成し得ていると思っております。そんな想いに賛同してくれる仲間が集まり、米沢内科病院としてスタートした当院も、今は、内科、整形外科、泌尿器科を柱とし、それぞれが専門性の高い医療を担っています。今年に入って、更に整形外科、泌尿器科の若手医師を1名ずつ迎え、充実した医療提供体制を整えることができました。これも、様々な形でご支援をいただいた皆様方のお陰と感謝しております。

また昨今、医師の働き方改革等も取り沙汰される中、職員満足度の追及も含め、100年企業を目指して、今後とも地域医療に貢献してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

〈病院の現状〉

1) 概要

名 称 医療法人米沢記念 桑陽病院
開 設 者 理事長 米澤 孝仁
所 在 地 山口県防府市車塚町 3-20
T E L 0835-23-1781
F A X 0835-25-6281
E-Mail soyo@aurora.ocn.ne.jp
U R L <https://soyo.or.jp>
診 療 科 内科、循環器内科、消化器内科、内分泌・糖尿病内科、整形外科、泌尿器科、透析科
病 床 数 一般病棟 57床、療養病棟 42床（うち地域包括ケア病床 8床）、計99床

2) 沿革

昭和46年 3月 米沢内科病院として開設（31床）
昭和55年 8月 73床に増床

昭和56年 4月 泌尿器科開設

昭和57年 9月 医療法人米沢記念設立。桑陽病院へ名称変更

平成11年11月 新本館竣工。121床となる

平成14年 4月 整形外科開設

平成24年 3月 西館竣工。脊椎脊髄病センター開設
一般病床60床、療養病床48床となる

令和2年 4月 一般病床57床、療養病床42床に減床

令和4年 7月 地域包括ケア病床開設

3) 特徴

草創期より透析医療に従事し、透析患者さんのニーズに応じて、診療科を拡充してまいりました。現在は、内科、泌尿器科、整形外科それぞれの専門領域で診断・治療が可能となっています。また、健康運動施設VIVA SOYOを運営しており、予防・医療の領域において、地域に根ざした活動を行っています。

協会役員コーナー

一丁やったるか



医療法人和同会
片倉病院
理事長

高橋 幹治

ゴールデンウィークが明け5月下旬に産学公金で「宇部市に脳卒中や脊髄損傷後の麻痺を治療するための高機能リハビリセンターを設立する」というビッグ・プロジェクトに参画しないかという依頼がきました。世界中から希望者と家族等を対象にインバウンド増加を見越して、医療ツーリズム的に行う目論見です。チームリーダーは弓削類(Louis)広島大学名誉教授で①再生医療と②革新的リハビリ機器を組み合わせたデザインです。当然、山口県と宇部市の地域振興も兼ねています。小生、平成6年度に山口県立中央病院（現県総）に勤務しておりましたが、その時の院長は弓削先生のご尊父。これも何かの縁と思いつつ私事です。医療法人統合の登記、清和会吉南病院の和同会への吸収合併が8月1日に控えており何かと忙（せわ）しい時期でした。しかし参画することを決め6月中旬には宇部市役所にて記者会見に出席しました。

今まで病院経営上①医療の質②経営の質③職場風土の向上を三軸に、診療もそこそこに持続可能な医療・福祉体制作りに注力していましたが、イノベティブな提案に数十年ぶりに「一丁やったるか」と夢ととともに覚醒してしまいました。標準化・汎用化までは10～20年必要と考えており、さらに優秀な医師・コメディカル（PTなど）・研究者・コーディネーター等が揃う事が必須条件です。

「面白きこともなき世を面白く」の精神で多数の方々のご助言、ご協力を仰ぎつつ腹を据えて進めてまいる所存です。

医療分野でのChatGPTの活用



玉木病院
病院長

玉木 英樹

世間を騒がせているChatGPTは、今後はどのような形で我々の日常生活、さらに医療分野に関わってくるのでしょうか？

試しに「山口県病院協会」と入力してみると、瞬時に協会ホームページ等から引用した、大変分かりやすい紹介内容が回答として帰ってきました。

それでは、医療分野でのChatGPTの活用事例はどうでしょうか。

「診断支援」、「画像認識技術の向上」、「事務作業の効率化」、「オンラインでの受診相談やカウンセリング」等があげられ、既に一部は実用化されています。

将来的には、膨大なデータから過去の症例等を検索することで早くて正確な病気の診断が可能となり、画像認識技術を組み合わせれば人間の視覚では判断が困難な部分の見極めが可能となり、がん等の初期発見に大いに貢献するものと思われます。

さらに、診断報告書や治療計画等の作成が容易になる上、スケジュール管理等と合わせることで病院自体の働き方改革にも寄与します。

最終的には、症状からどのような疾患の可能性があるのか、どの病院にかかればいいのか、そして処置後のケアに至るまで、自然な形で対応が可能となるのかもしれませんが。

しかしながら、人間の手や目が不要になるわけではありません。私は、地域に密着した顔の見える医師として、病気の治療だけでなく、心の安心を与えるような診察を心掛けていきたいと思っています。

病院スタッフコーナー

STとしての集団コミュニケーション療法へのかかわり



医療法人南和会
みどり病院
言語聴覚士

上田 佑記

当院では週に1度、集団コミュニケーション療法を実施しています。患者さんと、音楽療法士（MT）と共に口腔・身体運動、発声練習、歌唱、楽器演奏などを行っています。運動障害、意識障害により臥床が続いている患者さんが多く、音楽を通して少しでも癒しや楽しさを感じていただき、コミュニケーション能力の改善、QOL向上に繋がればと思い、日々取り組んでいます。

集団コミュニケーション療法では、まず、心を開いていただくことを大切に考えています。音楽を通して信頼関係を築き、歌唱や楽器演奏を促し、満足感や達成感を得る方向へ導きます。身体でリズムを取られる方や歌詞を音読する方、回想ができ、お話をされる方など、音楽からの自己表現は様々です。それぞれの楽しみ方で同じ時間、同じ空間を共有することにより、コミュニケーション能力の改善を図ります。

また、このような関わりは、口腔・嚥下・呼吸機能の維持、向上にも繋がっていきます。発話明瞭度が改善されることは、他者とのコミュニケーション能力が拡大し、更に経口摂取の継続、食事形態の向上に繋がりと、食生活への意欲や楽しみなど、精神的な満足感が得られます。

このように、集団コミュニケーション療法を通して得られる事は多く、有意義な時間を過ごして頂いています。今後も、MTと連携し精神面、機能面の向上を目指し、個々の課題やニーズにも向き合いながら、より良いコミュニケーションの場が作れるよう励んでいきたいと思っています。

SNSの活用



光市立大和総合病院
理学療法士

舞田 貴之

当院は平成24年に病院機能分化により慢性期病院への変更となり、回復期リハビリテーション病棟を開設しました。10年以上が経過し、経営的には安定して黒字化が図れています。

昔であれば経営が健全化すれば安泰でしたが、現在は医療情勢の目まぐるしい変化もあり、常にアップデートしなければいけない時代となっています。

昨年度より職員増員を図るため求人募集をしていますが、ホームページなどで掲載するだけでは周知が難しくなっています。そこでリハビリテーション部のInstagramを開設しました。求人情報を掲載するだけでなく、日頃の職場の雰囲気、当院の特色（園芸療法など）、活動などを掲載しています。実際にInstagramを見ていただき、DMから病院見学の依頼がきたり、職場の器具・施設の写真・動画を見ていただき、就職試験の面接の際にも「Instagramを拝見しました」との反応があります。

もちろん個人情報の取り扱いなど注意点もありますが、SNSを上手に活用すれば、病院の情報発信をリアルタイムに行うことができ、情報発信に効果的なツールになります。

新型コロナウイルスにより、以前より患者様の状況を見ることが少なくなっていること、ご家族が遠方へいらっしゃる、来院ができないなどといった状況にも、SNSを見ていただくことで、安心してもらうことができるのではないのでしょうか？

今後地域の皆さんから選ばれる病院となるためにも、SNSの利用を進めていきたいと思っています。

病院スタッフコーナー

当院でのMCTの取り組み



医療法人恵愛会
防府保養院
作業療法士

佐川 孝夫

当院では統合失調症の方への認知機能リハビリテーションに取り組んでいます。認知機能リハビリテーションは様々な種類がありますが、当院では比較的導入しやすく、ノーマライジングが促されやすい、メタ認知トレーニング（以下MCT）を行っています。

メタ認知とは「自分の考えを俯瞰して考える」認知の働きです。そして、MCTは自身の下した結論/判断に対して疑いをかけ、より適切な対処が取れるようになるためのトレーニングです。その方法ですが、5～10名の参加者とトレーナー1名がスライドを見ながら統合失調症の方が陥りやすい認知バイアスについて学びます。次に「誰もがそれを持っており修正可能である」ことを意識できるようゲームを通して体験してもらいます。参加者はその回が終わると練習で得た知識や体験を、日常生活に当てはめ振り返る事ができるよう課題が設定されます。これを週に1回、全16回行います。

令和5年2月からMCTを開始し、現在は1クール目を終えました。実施回数や対象者も少ない為、正確な評価は難しいところです。それでも練習したことを意識した患者さんが「過去の考えを振り返ってみようと思った」「困ったりおかしいなと思ったら家族に相談します」と語られたり、作業療法士と「これは結論の飛躍かな」とMCTで学んだ用語を使い、困った事の整理を試みるなど手ごたえを感じる事がありました。

始めたばかりの取り組みなので、院内ではまだ浸透しておらず、うまく活用できていない状況です。今回の試みを院内にわかりやすく説明し、MCTが活用できるよう職員全体で意見を出し合い、質の高いサービスが提供できるように努めています。

訪問看護ステーションを開設しました



山陽小野田市民病院
事務部長

和氣 康隆

山陽小野田市民病院は9月1日に訪問看護ステーションを開設しました。

このことは在宅医療の提供体制強化に繋がると考えており、地域包括ケアシステムの構築に貢献できる取組みと捉えています。

さて、今回の訪問看護ステーションの設置については中期的な計画にはなかった事業でした。それでは何が理由で設置に至ったかと申しますと、当院の病床数を215床から16床削減して199床とすることを決定したことでした。これまでは在宅療養後方支援病院であることで地域包括ケア病床の施設基準を満たしていました。しかし、200床未満になることにより、在宅療養支援病院を届け出るか、同一敷地内に訪問看護ステーションを設置することが必要になりました。いずれを選択するか検討した結果、当院では訪問看護ステーションの設置を選択しました。

しかしながら、院内には実務経験者がいるはずもなく、何をどのように進める必要があるのか一から調べなくてはなりません。ネットや本で調べるのはもちろん、監督官庁の担当の方から何度もご指導いただきました。また、実務面については他のステーションの方にご教示いただくなど、ご迷惑をおかけすることも多かったと思います。我々職員にとって、苦勞することも多かった分、よい経験になったと考えています。

これまでいろいろご指導・ご教示くださった方々にお礼を申し上げますとともに、今後、利用者や皆様のお役に立てるよう努力してまいります。

医療懇話会報告

令和5年8月25日（金）午後4時より、セントコア山口において令和5年度医療懇話会が開催され、山口県健康福祉部からは國吉宏和部長ほか12名、山口県病院協会から三浦修会長ほか18名が出席した。

三浦会長ならびに國吉部長より挨拶がなされ、出席者の自己紹介が行われた。続いて、健康福祉部の各課長より、令和5年度の山口県健康福祉部の事業概要についての説明がなされた。

上記のほか、がん検診受診率促進案について、新型コロナウイルス感染症の診療体制および患者増加中の救急体制について、山口県医療機関等光熱費高騰対策支援金の申請方法についてなど、協会側からの質問や意見要望が県へ伝えられ、各担当課長と積極的な意見交換がなされた。



三浦 修 会長



國吉 宏和 部長



懇話会風景



部会コーナー

令和5年度 山口県病院協会事務長部会 総会および第1回研修会

令和5年7月14日（金）、セントコア山口において、令和5年度山口県病院協会事務長部会の総会および第1回研修会が開催され、59名が参加した。

総会では役員改選が行われ、新役員が承認された。研修会では、Dr. JOY株式会社の吉田氏から、医師の働き方改革への対応の一例として、ビーコンを用いた勤怠管理について導入実例を交えた紹介がなされた。

また、閉会後には約4年ぶりに賛助会員も交えた意見交換会を実施。36名が参加し、顔の見える関係作りや情報交換を活発に行った。

【総 会】

議題1 事務長部会役員の改選について

任期満了に伴い、令和5年度山口県病院協会事務長部会役員は以下の通りとなった。

部 会 長	嶋崎 隆郎	（都志見病院 事務長）
副部会長	橋本 雅徳	（周南記念病院 事務局長）
副部会長	室田 義文	（尾中病院 経営管理部長）
常任幹事	西原 寛之	（周東総病院 事務長）
常任幹事	門出 健二	（小郡第一総合病院 事務長）
常任幹事	石田 憲司	（下関リハビリテーション病院 事務長）



嶋崎部会長挨拶



総会風景

【研修会】

テーマ 「医療DX化を通じた働き方改革の対応及び業務分析における職員の適正なコスト管理」

講 師 Dr. JOY株式会社 ビーコン事業部コンサルタントチーム

吉田 隼人 氏



吉田 隼人 氏



研修会風景

部会コーナー

令和5年度 山口県病院協会看護部長部会 総会および第1回研修会

令和5年7月31日（月）、セントコア山口において、令和5年度山口県病院協会看護部長部会の総会および第1回研修会が開催され、25名の参加があった。

総会では役員改選が行われ、新役員が承認された。研修会では、昨年度にWeb開催で行った松永氏によるPEP TALKの研修について、ワークを交えての実践編を実施した。

また、閉会後には看護部長部会として初の意見交換会を実施し、15名が参加した。3グループに分かれて看護部長同士の懇親を図り、診療報酬改定への対応や職員教育など、様々な問題について情報交換を行った。

【総 会】

議題1 看護部長部会役員の改選について

任期満了に伴い、令和5年度山口県病院協会看護部長部会役員は以下の通りとなった。

部 会 長	大林 由美子	（山口赤十字病院 看護部長）
副部会長	安永 彰子	（岩国市医療センター医師会病院 看護部長）
常任幹事	杉山 洋子	（周南記念病院 看護部長）
常任幹事	原田 美佐	（山口大学医学部附属病院 副院長・看護部長）
常任幹事	坂本 由紀子	（下関市立市民病院 看護部長）



大林部会長挨拶



総会風景

【研修会】

テーマ 「自分も相手も応援する励ましの技術 PEP TALK！ ワーク編」

講 師 Kmind代表 松永 佳世子 氏



松永 佳世子 氏



研修会風景

諸会議報告

令和5年度 第2回理事会

日時 令和5年7月19日（水）17:20～17:50

開催場所 KKR山口あさくら

【承認事項】

1. ウイルス性肝炎領域における山口県医療安全講習会への後援依頼について
2. 2023年度がん征圧全国大会（山口大会）への後援依頼について
3. 医療分野における電波の安全性に関する説明会in下関市への後援依頼について

【協議事項】

1. 令和5年度医療経営講習会の計画について
2. 令和5年度四県病院協会連絡協議会について
3. 令和6年度定時総会の開催日について

【報告事項】

1. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県医療対策協議会専門医制度部会委員 副会長 神徳 真也（再任）
 - ・山口県医療費適正化推進協議会委員 副会長 馬場 良和（再任）
 - ・山口県新型インフルエンザ等対策協議会委員 常任理事 木下 祐介（再任）
 - ・山口県がん対策協議会委員 理事 藤岡 顕太郎（新任）

- ・山口県がん対策協議会がん登録部会委員 理事 藤岡 顕太郎（新任）

2. 県各種委員会等の結果報告について 三浦会長

- ・第112回山口県医療審議会医療法人部会（7月10日）

神徳副会長

- ・令和5年度第1回山口県感染症対策連携協議会（6月12日）

馬場副会長

- ・第4回山口県立総合医療センター機能強化基本構想検討委員会（6月14日）

西田常任理事

- ・山口県公衆衛生協会令和5年度第1回理事会・評議員会（7月6日）

3. その他

令和5年度 第2回情報管理委員会

日時 令和5年9月13日（水）15:30～16:30

場所 セントコア山口

【協議事項】

1. 10月号の発行について
2. 新年号の発行準備について
3. その他

トピックスコーナー

山口県病院協会が共催・後援する集会等のお知らせ

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2023やまぐち

開催日時 令和5年10月21日（土）14:00～20:00

開催場所 山口県総合保健会館

問合せ先 リレー・フォー・ライフ・ジャパンやまぐち実行委員会（担当 松浦・大島・増野） TEL:083-933-0008

循環器病対策県民フォーラム・やまぐち健康経営フォローアップ講習会

開催日時 令和5年11月5日（日）11:00～17:00

開催場所 山口県総合保健会館

問合せ先 山口県健康増進課 健康づくり班（担当 藤井） TEL:083-933-2950

日本医療マネジメント学会 第22回山口県支部学術集会

開催日時 令和5年11月11日（土）13:00～17:00

開催場所 山口県済生会下関総合病院 3階講堂

問合せ先 山口県済生会下関総合病院（担当 青木・渡部） TEL:083-262-2300

お知らせコーナー

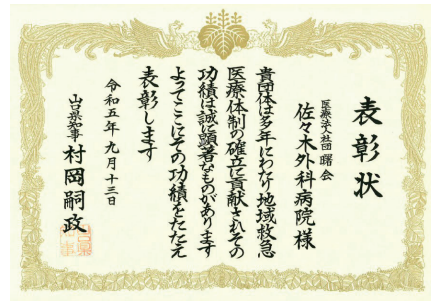
令和5年度山口県救急医療功労者知事表彰（山口県病院協会推薦）

多年にわたり、地域救急医療体制の確立に尽力された功績により表彰される山口県救急医療功労者知事表彰は、今年度は次の病院に決定し、9月13日、山口県庁において伝達されました。おめでとうございます。

佐々木外科病院（病院長 佐々木 明）



表彰式にて（前列右が佐々木病院長）



表彰状

正・副会長、顧問会議

令和5年7月7日、山口市湯田温泉「かめ福 オンプレイス」において、コロナ禍中は開催を見合わせていた正・副会長、顧問会議が開催され、協会の運営や今後の事業計画について報告、協議を行いました。

山口銀行との金融懇談会

令和5年8月2日、山口市湯田温泉「割烹 福助」において、山口銀行との金融懇談会が開催されました。山口フィナンシャルグループの椋梨代表取締役社長、山口銀行の曾我取締役頭取ほか計5名と、山口県病院協会及び医療関係4団体（全日本病院協会山口県支部、日本病院会山口県支部、山口県医療法人協会、日本精神科病院協会山口県支部）から代表役員と事務局の計6名が出席し、県内の経済金融情勢や今後の医療情勢等について意見交換を行いました。

病院協会の主な行事予定

○10月6日	第3回理事会	（会場：セントコア山口）
○12月13日	医療経営講習会	（会場：かめ福オンプレイス）
○1月6日	医療関係団体新年互礼会	（会場：ホテルニュータナカ）
○1月16日	西京銀行との金融懇談会	（会場：未定）
○1月26日	四県病院協会連絡協議会	（会場：山口グランドホテル）

編集後記

◆本年は、コロナ禍により明らかとなった医療体制の諸問題の解決に向けて、様々な動きが加速していくものと思われます。パンデミック等の有事の際の医療供給体制を確保するための感染症法の改正、医師の働き方改革、地域医療構想、医師確保計画、第8次医療計画、かかりつけ医機能の法定化など、医療機関にとって極めて重要な施策が進められます。さらに、医療DXの推進や2040年を見据えた全世代型社会保障制度など、将来に向けた動きも加速すると思われます◆様々な重要課題が山積していますが、現状から目をそらさず、今を示すデータとしっかりと向き合い、今ある医療資源を最大限有効活用し、地域において為すべき責務を勇気と覚悟を持って果たしていきましょう◆医療の基本は、患者様との信頼関係です。そして、その信頼は、常に目の前の患者さんに集中し、生命を尊重し、愛情をもって、全力で尽くすことでしか得られません。信頼を得ることは容易ではありません。しかも、その信頼を失うのは一瞬です。しかし、その信頼こそが、医療人にとって、正にかけがえのないものであることを忘れてはならないと思っています。（神徳 眞也）